

平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	<p>伝統芸能による表現活動を通じた総合的な学びの研究 — 狂言を柱とした音楽・舞踊・言語表現力育成カリキュラムの構築 —</p>		
プロジェクト期間	平成27年度		
申請代表者(所属講座等)	山本 百合子 (音楽教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>本プロジェクトでは、伝統芸能の代表例として早くから小学校の国語科教材としても採用されてきた狂言に着目し、狂言の多角的な学び方を探ることによる、音声/身体/言語の表現力を同時に高めていくようなカリキュラムの構築を目標としながら、初等教育における伝統芸能教材の教育実践の实情や今後の可能性を、調査と授業実践によって研究した。</p> <p>研究の取組は、以下の1.～7.のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校教育における狂言教材の位置付けと伝統芸能教材全般の教育上の目標・目的の調査および確認(教科と内容の両面から) 2. 小学校現場における狂言教材の実践状況と、教員の意識調査 3. 狂言の伝統的な伝承形態と、学校教育の教育形態の両者の調査および比較検討 4. 小学校における狂言教材の総合実践的カリキュラムの試案作成と授業実践 5. カリキュラム試案作成と授業実践を通じた実践効果と教育成果および課題の検討 6. 幼児の表現遊びの実践との比較考察 7. 本プロジェクトの研究目標へのまとめ (論文発表) 		
研究成果の概要	<p>取組1. を通じ、小学校の国語科の教材として教科書に取り上げられてきた狂言作品が、その作品選択においても関連教材の追加という面においても、近年変化してきている、すなわち国語科の教材として扱われながら、教材の担う教育目標が従来の教科の枠を超える範囲に拡大してきていることが確認された。</p> <p>取組2. では、本学附属小学校を含む計5校の小学校に、狂言教材の実践状況調査と教員の伝統芸能教材への意識調査等を行い、一定のデータを得ることができた。</p> <p>取組3. 4. については、本学に非常勤講師として出講されている和泉流狂言師野村万禄師および宮永優子師の協力のもと、狂言界の伝統的な伝承法の調査を行うとともに、現状で実践されている小学校現場での実践例の取材を通じて、学校教育というかたちの中での課題を抽出することができた。</p> <p>取組5. は、同じく野村・宮永両師の協力と、福岡市立平尾小学校の協力により、狂言教材を通じて今後期待される教科横断的な学ばせ方、具体的には国語科と社会科と音楽科と体育科にこれまで位置づけられてきたような要素を総合的に学び味わう、総合的な伝統芸能本来の味わい方に寄り添った学び方の試行を実践し、小学校教員との意見交換も行うことができた。</p> <p>取組6. については、平成26年度に附属幼稚園において実践した、狂言の手法による表現遊びの試みを通じて得られた教育効果や課題との照合により、伝統芸能を通じて子どもが学べるものについて考察した。</p> <p>取組7. として、本プロジェクトの研究目標である、伝統芸能教材を通じた、表現活動の総合的な学びのカリキュラム構築の試案を、論文発表へ向けて準備中である。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [<input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。]			
外部資金獲得申請(予定)	<p>■科学研究費補助金 □受託研究費 □その他 ()</p>	研究成果の公表方法(予定)	<p>■学会((国内)・国外): □新聞・図書・雑誌論文等: □その他:</p>